

米国自動車殿堂 豊田会長受賞スピーチ

皆さま、こんばんは。

まず、今回ともに栄誉を受ける皆さまに、お祝いを申し上げます。そして、この場を設けてくださった主催者の皆さまに感謝申し上げます。

そしてグレッグ、温かいお言葉をありがとうございます。次に何か話が持ち上がったときには、今日の言葉を覚えておきます。もっとも、よほど大きな話でなければ、興味を持っていただけないでしょうけど。

冗談はさておき、40 近い自動車ブランドを扱う販売店として、あなたは常に最高の基準を示し続けています。そして、この業界のリーダーとして、私があなたに抱く深い尊敬と感謝は、これからも変わることはありません。

さて、話を始める前に、皆さんにちょっとした秘密を打ち明けたいと思います。

2 日前、私はオフロード車を運転中にアクシデントに遭いました。ですから、少し傷だらけに見えるとしたら、それは本当に傷だらけだからです。

でも、ご心配なく。クルマは無事です。

世界中のトヨタ・レクサス販売店の皆さんについても、同じことが言えます。多少ひいき目があるかもしれませんが、これほど素晴らしいパートナーに恵まれた私は、本当に幸運だと思います。

今日、私がここに立っているのは、販売店の皆さん、その従業員の皆さん、そして世界中の 40 万人近いトヨタ従業員のおかげです。

この栄誉は、本当はその全員のものです。

もちろん、私が喜んで受け取りますが。

私にとってデトロイトは、自動車産業にとってのハリウッドのような場所です。そして、私の家族が昔から深く敬意を抱いてきた場所でもあります。

若き日の祖父・喜一郎が初めてデトロイトを訪れた時、ここで目にしたものに大きな衝撃を受け、日本のためのクルマをつくろうと決意しました。

その数十年後の1957年、父・章一郎はトヨペット・クラウンを運転してデトロイトにやってきました。それは、トヨタが米国へ輸入する最初のクルマでした。

父はそのクルマをとてん誇りに思い、自信に満ちていました。フォード本社の前に停めて、写真まで撮ったほどです。

ところが、その後I-94を走ると、その自信は、あっという間に吹き飛んでしまいました。

あの頃のクラウンは、時速60マイル出すのもやっとでした。ほかのクルマすべてに追い抜かれただけではありません。あの堂々たるクラウンを高速道路へ合流させるだけの速度を得るために、父は下り坂の進入路しか使えませんでした。上り坂ではなく、下り坂です。

「Oh, what a feeling」。父にとって、さぞ特別な気分だったことでしょう。

しかし、トヨタの原則である「カイゼン」、すなわち継続的な改善によって、私たちはほどなく競争力のあるクルマをつくれるようになりました。

そして今日、世界で何百万台ものクルマを販売するトヨタは、祖父の夢をはるかに超える発展を遂げています。

祖父と父は、何十年も前に二人を奮い立たせた、まさにこの場所から顕彰されることになりました。

そして今、豊田家の三代目である私も、二人の足跡をたどり、ここに立っています。

もっとも、これは決して約束されていたことではありません。三代目は苦勞を知らないか、すべてを台無しにする、とよく言われますから。

でも今のところは、大丈夫そうです。

物心ついた頃から、私はずっとクルマが大好きでした。

実は子どもの頃、大きくなったらタクシー運転手になりたいと思っていました。完全には実現しませんでした。今の仕事もかなり近いと思います。

私は、世界で一番好きなことを仕事にしています。クルマを運転することです。

しかも、かなり速く。

お聞きになった通り、トヨタの社長を務めていた時には、多くの困難を乗り越えなければなりませんでした。

しかし、私を支え、励ましてくれたのは、お客様、従業員、サプライヤー、そして販売店の皆さんの献身と支援でした。

なぜなら、皆さんの心をつかむことこそが、いつも私にとって最大の原動力であり、最大の励みだったからです。

何台のクルマを販売したかは、私にとって一番大切なことではありません。

何より大切なのは、そのクルマが、買ってくださった方々にとってどのような意味を持つかです。

私たちが売っているのは、「幸せ」なのです。

クルマを受け取る時に、うれしくない人がいるでしょうか。

クルマは、心を躍らせ、喜びをもたらす、特別な存在です。

疑いなく、今この部屋にいる私たちは皆、とても幸運です。

考えてみてください。私たちは、世界で最も素晴らしく、最も刺激的で、最もやりがいがあり、そして私に言わせれば最も格好いい産業に携わることができるのです。

私たちは、その一員であることを決して当たり前と思っはいけません。

この部屋に集まった力を考えてみてください。自動車メーカー、サプライヤー、販売店、ディストリビューター、モータースポーツ関係者、ジャーナリスト。

私たちが力を合わせれば、人々の暮らしをより良くする、並外れた力を発揮できます。

そして、優れたスーパーヒーローがそうするように、私は、それぞれの強みを結集し、私たちの力を「善いこと」のために使うべきだと信じています。

自動車業界は、これからの日々、そしてこれからの年月に、多くの不確実性と課題に直面します。しかし同時に、多くの機会もあります。

競争に向ける力を少し減らし、協力に向ける力を少し増やしたらどうでしょう。

私たちが力を合わせ、社会に良い影響をもたらすために何ができるのかに、もう少し目を向けてみませんか。

皆で同じ方向にこぎ進めたら、素晴らしいと思いませんか。ワールドカップのノルウェーのファンのように。

(ルー！)

私は心から、この部屋にいる全員に、この業界にいる全員に、成功してほしいと思っています。

私は、皆で勝ちたいのです。

ですから今夜、感謝を込めて、友情を込めて、そしてパートナーシップの思いを込めて、皆さまに手を差し伸べたいと思います。

祖父や父と同じように、私もこの栄誉に深く感動しています。

そして、この自動車業界と、私がその一員であることに心から感謝している「自動車ファミリー」を支えるために、この栄誉にふさわしい存在であり続けられるよう、日々努力していくことを謹んでお約束します。

共に歩めば、私たちに想像できないことはありません。創り出せないものはありません。そして、乗り越えられないものはありません。

道が私たちをどこへ導こうとも、その旅と一緒に楽しみましょう。

ありがとうございました。